

北海道教育推進会議高等学校専門部会（第3回） 議事録

1 日時

令和4年（2022年）5月26日（木） 10：00～11：00

2 場所

Web会議システム「ZOOM」による開催（事務局：道庁別館7階 教育庁会議室）

3 議事

「これからの高校づくりに関する指針」（改定の方向性）について

4 会議資料

資料1 「これからの高校づくりに関する指針」（改定の方向性）

資料2-1 「これからの高校づくりに関する指針」検証結果報告書【概要版】

資料2-2 「これからの高校づくりに関する指針」検証結果報告書

資料3 北海道教育推進会議高等学校専門部会（第2回）議事録

5 出席者

○ 北海道教育推進会議高等学校専門部会

間嶋委員（部会長）、篠原特別委員、和田特別委員、野崎委員、山田特別委員、朝倉委員、木内特別委員、近江特別委員、松岡特別委員

● 事務局

堀本学校教育局長、谷垣道立学校配置・制度担当局長

高校教育課：山城課長、岡内課長、田原課長補佐、小倉課長補佐、山根主査

（田原課長補佐）

- ただ今から、第3回北海道教育推進会議高等学校専門部会を開会します。私は、4月1日付け人事異動により着任しました高校教育課課長補佐の田原です。どうぞよろしく申し上げます。開会に当たりまして、学校教育局長堀本から御挨拶申し上げます。

（堀本学校教育局長）

- この4月の人事異動により学校教育局長で参りました堀本です。どうぞよろしく申し上げます。第3回北海道教育推進会議高等学校専門部会の開会に当たり、一言御挨拶申し上げます。皆様方におかれましては、日頃から本道教育の推進に御理解、御支援をいただいておりますことに、改めて心からお礼申し上げます。また、御多用の中御出席いただき、重ねて感謝申し上げます。本会議については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインでの開催とさせていただきます。

さて、2月に開催しました第2回専門会議におきましては、現行指針の見直しに当たり作成しました検証結果報告書について御審議いただいたところです。本日は、検証結果を踏まえ、作成しました改定の方向性について御審議いただきたいと考えております。委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場から忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。開会に当たりましての挨拶とさせていただきます。

（田原課長補佐）

- 会議に先立ちまして事務連絡を3点申し上げます。まず1点目は委員の変更についてです。

安宅委員についてですが、一身上の都合により辞任の申し出があったため、3月の教育委員会において、後任として北海道大学大学院教育大学院准教授の篠原委員を任命したところです。次に、田尻委員についてですが、北海道高等学校長協会からの御推薦により当部会の委員を務めていただきましたが、3月31日付けで御退職されたため、現在後任を調整中でございます。決定しましたら改めて御連絡いたします。また、4月1日付けの人事異動、機構改正により事務局職員に変更がありますので紹介させていただきます。先ほど御挨拶申し上げました学校教育局長の堀本でございます。

(堀本学校教育局長)

- 堀本です。どうぞよろしくお願いいたします。

(田原課長補佐)

- 道立学校配置・制度担当局長の谷垣でございます。

(谷垣道立学校配置・制度担当局長)

- 谷垣です。どうぞよろしくお願いいたします。

(田原課長補佐)

- 高校教育課長の山城でございます。

(山城高校教育課長)

- 山城です。どうぞよろしくお願いいたします。

(田原課長補佐)

- 事務連絡の2点目、本日の日程についてです。この後、議事となりますが、事務局から説明させていただき、その後質疑・応答となります。終了予定時刻は11時となっております。

事務連絡の3点目、本日の配付資料の確認です。本日の次第のほか、資料1「これからの高校づくりに関する指針」(改定の方向性)、資料2-1「これからの高校づくりに関する指針」検証結果報告書【概要版】、資料2-2「これからの高校づくりに関する指針」検証結果報告書、資料3「北海道教育推進会議高等学校専門部会(第2回)議事録」です。なお、配付資料のうち、次第の裏面にある出席者名簿について一部訂正がございます。萩澤委員の出欠の欄にマルが記載されておりますが、本日の部会を欠席されるという連絡がございましたのでお知らせいたします。

この後の議事について、発言時にはマイクのリムートを解除していただき、それ以外はマイクをミュートにするようお願いいたします。事務連絡は以上です。それでは議事に入ります。議事進行については、間嶋部会長にお願いすることとしております。よろしくお願いいたします。

(間嶋部会長)

- それでは早速ですが議事を進めていきたいと思っております。「これからの高校づくりに関する指針」(改定の方向性)について、事務局から説明をお願いします。

(山城高校教育課長)

- 「これからの高校づくりに関する指針」について、お配りしている資料1に基づき説明いたします。当初、骨子案の名称でお示しする予定で進めておりましたが、「改定の方向性」として改定版指針の構成を示すこととし、2月に皆様に御審議いただきました検証結果報告書を踏

まえ作成しております。なお、項目ごとの詳細な内容については、今後作成する素案でお示しすることを検討しております。それでは、説明に入ります。

改定に当たっては、現行指針の検証の結果、見直しが必要としたコミュニティ・スクールの導入やコンソーシアムの整備促進、地域連携特例校等の再編整備の留保期間の設定といった「地域における教育機能の維持向上のための方策」、通学可能圏域の中核となる市町村と周辺市町村とともに、高校配置等について検討する場を設定するといった「一定の圏域で高校配置の広域的な在り方について地域とともに考える場の設定」、学際領域に関する学科、地域社会に関する学科の設置の検討など、「国の普通科改革を踏まえた、生徒のニーズや社会の変化に応じた新しい学科等の設置」の3つのポイントに沿って、5つの構成に分け具体的な施策の方向性を示すこととしたところです。

はじめに、Ⅰでは、指針の趣旨と、適用時期について示すこととしております。

次に、Ⅱ 地域とつながる高校づくりでは、コミュニティ・スクールの導入やコンソーシアムの整備を促進し、学校と地域が連携・協働した高校の魅力化や特色づくりを進めるといった「地学協働の推進」や、これまで主に同一市町村内に所在する高校で実施してきた高校再編について、高校の小規模校化が進み、市町村を越えた通学可能圏内での再編も検討する必要があることから、「通学可能圏域の中核となる市町村と周辺市町村とともに、高校配置等について検討する場の設定」の検討、また、T-baseの配信機能の強化、地域連携特例校と協力校との一層の連携の推進といった「地域連携特例校の充実」など、地域における高校の役割を踏まえつつ、高校の教育機能を維持向上するための方策等に係る考え方と施策の方向性を示すこととしております。

次に、Ⅲ 活力と魅力のある高校づくりでは、普通科、理数科や体育科、外国語等に関する学科などの専門学科、総合学科、職業学科、多様なタイプの高校等、学科に着目した基本的な考え方と方向性を示すほか、国の高校改革を踏まえ、現代的な諸課題に対応するための学習に取り組む普通科における新しい学科等の設置など、活力と魅力のある高校づくりに向けた学科の在り方等について示すこととしております。

次に、Ⅳ 公立高校配置計画では、Ⅱ、Ⅲを踏まえ、公立高校配置計画に係る基本的な考え方と方向性を示すこととし、生徒の修学機会の確保や地域創生の観点に立った地域における教育機能の維持の必要性や、地域との連携・協働体制を整備し、魅力ある高校づくりを推進するなど、本道特有の地域特性に応じた高校配置に関すること、地域連携特例校等の再編整備の留保について、一定の期間を定め、一定の期間が終了した段階において今後の在り方を検討するといった、小規模校の存続等地域の教育機能の維持向上や学校規模の適正化などによる教育環境の充実を踏まえた高校配置など、配置計画における基本的な考え方を示すこととしております。

最後に、Ⅴ 教育諸条件等の整備では、地域特性や地域からの要望等を踏まえた道外からの推薦による入学者の受入れの拡大や、新たに設置を検討している普通科新学科などの通学区域の取扱い、高等学校生徒遠距離通学費等補助制度の見直しの検討といった内容について示すこととしております。説明は以上です。

(間嶋部会長)

- 只今の事務局の説明について、委員の皆様から意見の前に御質問を受けたいと思いますので、手を上げるか合図を出していただきたいと思います。

(間嶋部会長)

- まず私から1点お願いします。資料1の5章「道外からの入学者の受入れ」の拡大について、事務局から説明がございました。現状、道立高校の道外からの推薦による入学者の受入れの現状について伺いたいのが1点と、町立の奥尻高校が道外からの入学者を募集していますが、道

立高校で募集することになるときの進め方やシステム等の概要を大雑把でも構わないので、何か情報があれば教えていただきたいです。

(山城高校教育課長)

- 現在、道立高校の道外からの入学者選抜の受入れについては、農業科、水産科、地域の特性に根ざした科目を履修できる特色のある教育課程を編成している学科について、道外から一定の割合で入学者の受入れを行っているところです。

これが次の高校入試から、農業科、水産科、その他の学科という枠ではなく、地域の特性にあった科目を履修できる学校においては、道外から受入れが可能という形で学科の枠を撤廃した改定となっています。奥尻高校やおといねっふ美術工芸高校等、広く道外から受入れているのは市町村立高校になります。

(間嶋部会長)

- ありがとうございます。他に御質問ございませんか。山田委員お願いします。

(山田特別委員)

- 今の改定版の指針の構成を見て説明を聞いていたのですが、資料2-1では私学に配慮することが記載されていますが、資料1で抜けているのはあえて記載しなかったということなのでしょうか。

(山城高校教育課長)

- 資料1については、あくまでの改定の方向性ですので、この後、作成する素案には、私立高校の配慮についても詳しく記載する予定です。

(間嶋部会長)

- この後、色々な意見を出していただきながら、素案に反映させていくという方向で確認していきたいと思います。他に御質問ございませんか。篠原委員お願いします。

(篠原特別委員)

- 定時制課程・通信制課程についての方向性も含まれているかと思いますが、広域通信制の高校は私学も含めかなり発達してきている中で、生徒募集も好調であるというのが私の認識です。そういった時に、北海道としての定時制課程・通信制課程の方向性を考えるには、難しい議論が必要になると思うのですが、どのように総括されているのか、現状をどのように捉えているのかをもう少しお聞かせいただけたらと思います。

(山城高校教育課長)

- 資料2-1に、定時制課程・通信制課程の記載があります。篠原委員が言われるように、道立の有朋高校の通信制課程においても、ここ数年は毎年、前年度を上回る受験者数で希望する人数も非常に多くなってきている現状があります。そういったことから、篠原委員からいただいた意見や、この後も皆様方から、定時制課程・通信制課程における記載の仕方であるとか、方向性について、多くの意見をいただきながら、素案に記載させていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

(間嶋部会長)

- それでは篠原委員からも出てきましたが、今後、これからの素案作成のために、多くの御意

見を賜りたいと思います。篠原委員よろしく申し上げます。

(篠原特別委員)

- 私は安宅委員から引き継いで今回から参加させていただくのですが、実は、前回の指針づくりに関わっていた立場でもあったため、どのように5年前を総括するかというところと、それを含めて、この先、より未来志向でどのような厳しい状況がありながらも、高校づくりを考えていけるかという岐路に立たされているなど思っているところです。そのときに、いくつか意見としてあるのですが、全てを説明すると多くなるためポイントだけ伝えさせていただきます。

まず、高校配置で地域連携特例校の存続に年限を設けるということがもはや避けられない状況なのかという少し懐事情も含めた質問になります。地元自治体では存続に向けて非常に強い思いを持たれている地域が多いですが、北海道として年限の撤廃はやむを得ないという状況なのでしょうか。例えば市町村立高校への移管を奥尻高校や大空高校などで行っておりますが、そういう道しか残されなくなるのでしょうか。或いは、高校存続にもこだわってられないことから、近江委員がいらっしゃる浦幌のように地元の高校がなくなった後の地域に高校生の学びの場を豊かに確立していく動きと、他の自治体の高校とのコラボレーションを図る道などを北海道の方針として、幅広く示す段階になってきているのでしょうか。

次に、普通科の学科改革が令和3年に示され、それに向けて今回の指針にも考えていくことが案として出てきたと思います。普通科の学科を多様化させていくこと自体、専門学科の高校と従来の普通科で序列をつくってきた日本の歴史がある中で、このままでは普通科の中でも偏差値序列をつくってしまう恐れがあると懸念しております。むしろ改革の本丸は、今までの従来の普通科そのものにあるだろうと思います。大学受験の転換も当然議論されていますが、高校における普通教育の学びの転換ということ、道教委含めてどう示していくことができるのかということが、今回の指針の中で議論すべき点の一つではないかと考えているところです。

なんというか、実学を軽視して、かなり抽象的な学問ベースに寄った普通教育というのは高校レベルはかなり力を入れてきたところだと思いますし、受験もそういう形を続けている大学側の責任もあるのですが、これからの時代にしっかりと生き抜く、未来を作っていく若者を育てることを考えていくとなれば、これは大学にいる私もそうですが、このままではいけないというものの問題意識でおります。

あと二つ言わせていただくと、専門学科高校においても、逆に実学重視で、普通教育はどうなってきたのだろうかということが気になっています。岩見沢農業高校等いくつかの高校では普通教育等との融合もかなり考えられてきたとは聞いていますが、これから大学進学等も含めて、専門学科高校には進学の道はないんだと保護者や中学生に向けて、誤解されるようなメッセージを示してはいけないという思いも持っていたところです。

もう一つが地域コーディネーターについてです。既に自治体による採用で道立高校に配置するケースもいくつか把握しています。自治体採用という形が、今後、地域と高校との協働により力を入れていくとなったときどうなのか。今までも自治体任せのところがありますが、北海道として整備のあり方をどう考えるかという方向性も重要だと思います。例えば、3学級以下の地方の高校にはすべて配置するぐらいの目標を持っていいかなと思います。一方でコーディネーターの専門性が非常に難しいというか、幅広い知識だけではなく、その人間性も含めて重要な役割を果たすがゆえに難しい職業でもあるという思いも持っております。このあたりをこれからの5年、10年を考える上で、指針の中にどう盛り込めるかということは議論できたらいいと思います。回答は高校教育課に求めるということによろしいですか。

(間嶋部会長)

- 篠原委員ありがとうございました。本日は素案作成のために多くの意見を出していただくこ

とですので、篠原委員から大きくに3つの論点をあげていただきましたが、これについてはそのまま本日の会議の意見として反映するという御理解いただければと思います。

(篠原特別委員)

- 分かりました。

(間嶋部会長)

- どうしても何か今の時点で聞いてみたいことがあれば別ですが、例えば、地域連携特例校の再編についても決まっているわけではありませんので、どうしても年限を設けるという意見がここで出されればそれは意見としてあると思いますし、また、それが難しいということで少し保留が良いのではないかという意見があればそれを反映していくことで押さえていただければと思います。それでは他の方の御意見も伺いたいと思います。山田委員お願いします。

(山田特別委員)

- 今の話に関連しますが、一応、5年間やったことへの総括が少し不十分ではと思っています。というのも、フィールド制について単位制へ移行するという形がほとんどですので、フィールド制がどうだったのかを道教委としてもはっきりと示さなければならないと思っています。アンケートを見ていると不思議なことが起きていて、批判的な回答はないのです。親や子どもがどのように学校を選んでいるのかというと、成績に合っている学校を選択していて何々制とか何々制という認識は高くはないかと思っています。それを踏まえると、道教委の考えとして、フィールド制をやめて単位制に移行していくことを指針に盛り込む必要があると思っていますのが1点です。

2点目は途中から入ってきたアンビシャススクールの説明です。勉強が分かるようになる。将来について考える。の2点が出ているかと思いますが、どこの学校でも、何科であっても、同じだと思っており、何故アンビシャススクールなのかというのが疑問ですので、そこについての記載があった方がいいと思います。

(間嶋部会長)

- これについては事務局から、フィールド制の総括、アンビシャススクールについて回答をお願いしたいのですが、時間がかかるようでしたら最後をお願いします。引き続き、御意見を沢山寄せていただきたいと思います。近江委員お願いします。

(近江特別委員)

- 資料1の「一定の圏域で高校配置の広域的な在り方について地域とともに考える場の設定」という書き方をされていますが、第1回専門部会の際に提示いただいた資料1-1を見ると、「地域とともに考え新たな仕組みを構築する」と謳われておりました。仕組みを構築するから考える場を設定とした場合、若干狭まったような書き方になったように思いましたので、仕組みの構築というように改めて書き直すこともありかと思えます。

(間嶋部会長)

- 圏域に拘らない新たな仕組みという部分ですね。御意見として承りたいと思います。他に御質問ございませんか。一つ一つの意見について吟味したりせずなるべく沢山の意見をお寄せいただきたいと思いますのでよろしく申し上げます。松岡委員お願いします。

(松岡特別委員)

- コミュニティ・スクールの導入やコンソーシアムの整備促進について、地域コーディネーターを担っている立場からお話しします。現在、当別高校ではコンソーシアムを立ち上げたばかりで、コミュニティ・スクールへの移行について議論がされています。今は北海道の予算でコーディネーターをさせてもらっていますが、2年後に当別町から予算がでる雰囲気はまだなく、予算は北海道で負担することで導入や整備が促進すると思っています。

魅力ある高校づくりは、差別化を図る流れなのかなと読み取りました。また、誰にとっての魅力かという生徒にとってだと思っています。その先に特色という効果が出てくるかなと思うと、高校内で地域の方から議論になっているのは、何かをやりたいという生徒が1人でもいたら、どのように地域や高校がバックアップ体制を作っていけるかということと、生徒の興味・関心に対して、先に地域のことを紹介する中で、そこに興味を持ってもらい、地域との連携がより図りやすくなるのではとの話に最近なっています。

コミュニティ・スクールは、中学校は導入が進んでいて道立高校は導入が進んでいないと聞いていたので、形骸化しないように、どういうふうに進んで欲しいのかという流れも示して促進していくのがいいと思います。この指針にどこまで具体的に含まれるのかわかりませんが、細部まで議論をして含んでいけたら、中学生から見た時に、高校の魅力が見えるものができるのかなと思いました。

(間嶋部会長)

- コミュニティ・スクールや魅力化づくりの中で、財政的な支援も含めた、導入の流れの具体化ということで要望・意見として受けとめたいと思いました。コミュニティ・スクールについては小中学校も導入は進んでいますが、一部では形骸化しているところもありますので、高校のコミュニティ・スクールについても、形骸化しないような手だてが必要だと私も感じました。他に御意見ございませんか。野崎委員お願いします。

(野崎委員)

- 今のお話をきいていて、本校は登別市にある緑陽中学校ですが、登別市は平成26年頃からコミュニティ・スクールを導入し小学校や中学校で取り組んできました。色々と展開していく中で地域にある高校もコミュニティ・スクールを導入していただき、それが本校の校区にあるものですから、中学校、小学校、高校と合同で学校運営協議会を行うことも始めています。そうすると小中学生が高校生と交わり、可能性が広がっていき、松岡委員がおっしゃられたような子供たちにとってこういう高校なのだから、高校は単位制なのだから、単位制はこういうことなのだから子供たち自身が感じ取れる。この魅力ある学校づくりというところは、やはり子供たちにとってなのだろうなど。子供たちがそういうことを考えやすいような環境を整えていくことも、こちら側の考えの中に入れていかないといけないのかなと改めて思いました。

(間嶋部会長)

- 地域連携協働のプロセスの中で子供たちの意見もぜひ反映していくという視点も素案の中に盛り込んでいただければと考えます。他に御意見ございませんか。

(間嶋部会長)

- それでは私から先ほども少し触れたのですが、地域連携特例校については篠原委員と少し似ているのですが、地域には色々な実態があると思いますので、道教委の方も、機械的に年限が来たという理由をもって再編整備をするとはしなかった部分があると思います。長沼町はJRが通っていないため通学には難儀なところがあります。こういう場所で高校がなくなってしまうと、その保護者の経済的な負担や通学に係る時間的な部分もあるため、色々な地域によって

の事情や実態がある中で、その再編整備についての考え方も十分考慮していただきたいという意見を挙げさせていただきます。

(間嶋部会長)

- 時間もあと少しなので一つ二つぐらい伺いたいと思います。まだ発言されていない委員の皆様いかがでしょうか。それでは木内委員お願いします。そのあと朝倉委員お願いします。

(木内特別委員)

- 私はこの委員に所属する前も全然教育のことに携わっておりませんので、皆さんの御意見や話の流れを聞いていても、未だピンとくるところまでいっていません。同友会では、色々な地区会との関わりをもっているのですが、浜中地区では、まずは学校の生徒さんに行く前に、学校の先生との懇談会とかに力を入れております。同友会で取り組んでいることは、インターシップの受入れや企業とのマッチング等、学校で学ぶことではないのですが、(企業と学校との)中間に入り、生徒の現在の姿が少しでもよくなること、あと、勉強会やセミナーとして、来月頭に弟子屈町で行う地域教育フォーラムに講師をお呼びして、高校教育に関すること、地域での人づくりに関することに取り組んでいます。色々な地区で同友会が関わり地域と密接な関係にあるということが、この委員の一員にさせていただいてから、すごいことをやっているのだなど、一つ一つ照らし合わせている状況でございます。今後、一例でも取り組んでいることを皆さんに発表・提示できるような状況を作りたいと思っています。

(間嶋部会長)

- 同友会の御意見や実践も、今後交流できるとよろしいかと思えます。続きまして、朝倉委員お願いします。

(朝倉委員)

- 私からは違った視点で一点、道外からの入学者の受入れ拡大をされていく話がありました。色々なところで人がどんどん流出していくことに皆さんが課題を抱えていると思うのですが、高校も、高校のために家族で移住したいという方々も呼び込めるような、魅力ある高校独自のカリキュラムを出して、子供たちだけでなく家族も移住するとういと思えます。教育委員会とは違った分野と関わってくると思うのですが、雇用を生み出したりとか、企業を呼ぶとかにも繋がってきて、町全体がどんどん活性化していく一つのきっかけにもなるかなと思うので、道外でも道内でもいいと思えますが、ぜひ通いたいというような子供たちが出てくるような高校づくりをしていくと良いのかなと思いました。

(間嶋部会長)

- 卒業の先には確かに雇用や就職という大きな問題があると思えますので、そういうところを見据えながらという御意見と承りました。それでは他になれば事務局から、山田委員などの質問の部分も含め、全体を通した中での回答をいただきたいと思えます。それから篠原委員からチャットでの意見もありますので、後で御覧になっていただきたいと思えます。

(篠原特別委員のチャットでの意見)

- 発言は控えてチャットで追加意見を申し上げさせていただきます。地域での高校配置計画に関わり私学との協議をどうすすめるか。私は小樽明峰高校の学校法人の監事をしており高校経営の厳しさを日々受け止めています、一方で地域において公立高校がカバーし得ない教育ニーズに答えてきた自負があり、広く地域での多様な教育環境を確保するために、地域での高校

配置のあり方を考える場において私学との協働も含めて欲しいところです。

(篠原特別委員)

- 冒頭で山田委員がお話された私学との関係の話なので、あわせてお答えいただくのでいいかなと思っております。

(間嶋部会長)

- わかりました。それでは事務局よろしく申し上げます。

(山城高校教育課長)

- 先ほどありましたフィールド制及びアンビシャススクールについては資料2-2「これからの高校づくりに関する指針」検証結果報告書の39ページに記載をしております。意見にもありましたとおり、素案にはわかりやすい形で記載する方向で考えております。またアンビシャススクールにつきましても、今の状況だけではわかりにくいという御意見もありましたので、道民の皆さんが、アンビシャススクールとはこういう学校だというのをわかりやすい形で記載に努めていきたいと思っております。

様々な意見の中には、例えば道外からの受験については、私どもも生徒が住むところや生活をどうするという視点はありましたが、朝倉委員からあったように、例えば、家族で北海道に移住してきた場合は、もちろん地域にとっては人口が増える、そして雇用も活性化するという視点も、様々な自治体と配置計画等で話す際の話題の一つとしていけば、地域の活性化に直結していくのかなと気づきましたので、このような意見を素案の中に多く入れていきながら、また皆様方から素案の段階で多くの意見いただきながら、指針の作成に努めていきたいと考えております。私学につきましても、素案の方に記載させていただきその中でまた委員の方々から御意見をいただきたいと思っております。

(間嶋部会長)

- 委員の皆様多くの御意見ありがとうございました。この辺りで協議を終えたいと思いますが、本日、欠席の委員もおりますので、追加や後で気づいた御意見等ございましたら、事務局にメールを送る形で対応をしていただきたいと思いますと思いますが、事務局よろしいですか。

(山城高校教育課長)

- 是非多くの意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(間嶋部会長)

- いつぐらいまでにメールを送信するという期限はありますか。

(山城高校教育課長)

- 後程、皆様にお知らせいたします。

(間嶋部会長)

- 何かございましたら、折角の素案作成ですので、多くの意見を反映させて進めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上で協議の方を終了して、進行を事務局の方にお返しいたします。大変お疲れ様でございました。

(田原課長補佐)

- 間嶋部会長、大変ありがとうございました。またの委員の皆様におかれましては、熱心な御議論いただきまして、感謝申し上げます。次回、第4回の高等学校専門部会につきましては、改定版指針の素案について御審議いただきたいと考えております。今後皆様のスケジュールを確認させていただき、日程を調整したいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。それでは閉会に当たりまして、学校教育局長堀本から御挨拶申し上げます。

(堀本学校教育局長)

- 閉会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。本日は限られた時間ではございましたが、皆様それぞれの立場から、多くの貴重な御意見をいただきまして、大変ありがとうございました。本日議長いただき進行いただきました間嶋部会長を始め、委員の皆様にご改めて感謝を申し上げる次第でございます。今後、皆様からいただきました御意見なども十分参考とさせていただきながら、例えば、本道における高校の魅力化や、或いは、地域の実情を踏まえた配置のあり方などを今後とも素案の策定に向け、検討を重ねて参りたいと考えております。

次回は、今回御審議をいただいた改定の方向性を踏まえ、策定をする指針の素案について御議論をいただく予定でおります。委員の皆様には引き続き、忌憚のない御意見をいただきますようお願いを申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。

(田原課長補佐)

- 以上で、第3回北海道教育推進会議高等学校専門部会を終了いたします。本日はありがとうございました。